

プレスリリース

プランツラボラトリー株式会社
株式会社G S I クレオス

2020年6月30日

生分解性プラスチックの野菜用パッケージを共同開発

～プラスチックごみ削減に向けて～

プランツラボラトリー株式会社（東京都港区：代表取締役 湯川敦之、以下 プランツラボラトリー）と株式会社G S I クレオス（東京都千代田区：代表取締役 社長執行役員 吉永直明、以下 G S I クレオス）は、生分解性プラスチック「Mater-Bi（マタビー）」を用いた野菜用パッケージを開発しました。

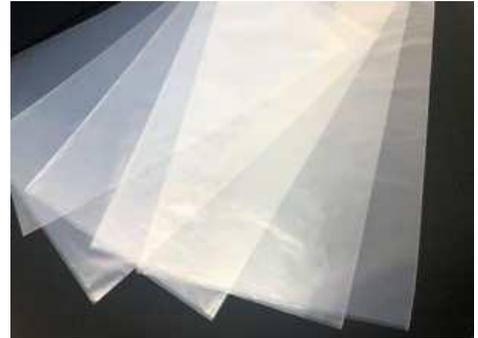
プランツラボラトリーが「プラスチックごみ削減に向けた、環境にやさしい野菜包装を開発する」というコンセプトのもと本開発を企画・主導する一方、G S I クレオスは生分解性の高い樹脂（原料）である「Mater-Bi」とその製品化のためのノウハウなどを供給し、従来のプラスチック包装に替わる環境配慮型パッケージの製品化に成功しました。

【商品開発背景】

現在、日本で使用されているプラスチックの大半は、自然界では分解されず、土壌や海洋などの環境において半永久的に残留してしまうタイプのものです。これに対して生分解性プラスチックは、微生物の働きによって水と二酸化炭素にまで分解されることから、プラスチックごみの削減に貢献する原料として期待されており、法規制の厳しいヨーロッパなどでは、すでに様々な用途（製品）で使用されております。

日本においても、本年7月からのレジ袋の有料化や紙製ストローの活用など、プラスチックごみ削減に関連した環境保全活動が活発化しています。

このような背景を踏まえ、プランツラボラトリーおよびG S I クレオスは、環境に配慮した新たなパッケージの開発に着手しました。



今回開発した野菜用パッケージ

【ご参考：Mater-Biについて】

植物由来ポリマーやトウモロコシ澱粉を原料とする、欧米で最も使用実績のある生分解性プラスチック（イタリア・ノバモント社製）で、土壌のみならず海洋でも分解されることも特長です。

<本件についてのお問い合わせ>

プランツラボラトリー株式会社（事業開発室）
株式会社G S I クレオス（経営企画部 企画広報課）

Tel 03-6432-9133
Tel 03-5211-1802